

国連WFP 熊本地震支援活動レポート

～「ファミリーマート夢の掛け橋募金」による災害支援活動～



2016年4月20日（水）～6月24日（金）

ファミリーマートは将来を担う子どもたちの健康な成長と発展のため、2006年から「ファミリーマート夢の掛け橋募金」を通じて国連WFP協会（※）に継続的に寄付しております。この寄付金は、紛争や自然災害による被災者たちの生命を守るための「緊急食糧支援」、子どもたちに栄養価の高い給食を提供して就学率と学習能力を高める「学校給食プログラム」など、世界中の飢餓と貧困をなくすために活用されています。2016年4月14日・16日に震度7の地震が発生した熊本県。国連WFPは熊本県からの要請を受け、4月20日～6月24日までの2ヶ月間にわたり災害支援活動を実施しました。ファミリーマートでは、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」から「国連WFP熊本緊急支援」として用途を限定した2,371万6,029円の寄付を行い、この支援活動に役立てられました。

（※）国連WFP協会は、国連の食糧支援機関「WFP 国連世界食糧計画」（国連WFP）を支援する認定NPO法人で、日本における国連WFPの公式支援窓口です。



熊本県の大津町の倉庫内に運搬された救援物資

国連WFPは2ヶ月にわたり、倉庫の設置、物流支援等で救援活動を実施しました

熊本県での災害支援活動は、国連WFPの強みであるロジスティクスを柱として、倉庫の設置、救援物資の配荷を中心に実施されました。この設営や物資の調達・供給などを通じて、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」からの寄付金が活用されました。

支援活動1 5棟の大型可動式倉庫の設置

地震により深刻な被害を受けた熊本県大津町・嘉島町・益城町・熊本市に、国連WFPが5棟の大型可動式倉庫（24x10m、32x10mの2タイプ）を設置し、救援物資倉庫およびボランティアの活動スペースとして活用されました。6月24日に国連WFPの支援活動が終了した後は、この5棟の大型可動式倉庫が現地の自治体やNPO支援団体に引き渡され、引き続き復興支援に役立てられることとなりました。

支援活動2 熊本県庁への物流支援

国連WFPは物流の専門家を現地に派遣し、熊本県庁に寄せられていた70品目近くの大量かつ多様な救援物資の在庫管理や、避難所と救援物資とのマッチング（最適な配分）を行い、6月中旬までに全ての救援物資を被災者の手に届けることができました。

支援活動3 JVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）への調整支援

行政やNPO支援団体との活動調整を担うJVOADとともに、国連WFPが被災者のニーズと支援団体のマッチング等を実施したことより、ボランティア人員などの配置を平等かつ効率的に実現することができました。その他、避難所の巡回での情報収集や解決策の提案、行政と社会福祉協議会、支援団体との情報共有体制の構築に取り組み、今後における復興支援の枠組みについての調整を行いました。



益城町に設置された大型可動式倉庫



専門家による避難所と救援物資のマッチング



被災者と支援団体をつなげる会議の様子

国連WFP協会への寄付のほか、ファミリーマート本部では“社会・生活インフラ企業”の機能を果たすため、被災地店舗の営業支援を目的に社員ボランティア延べ1,000名の派遣や、災害協定に基づく物資支援（計8回）、店頭募金による義援金1億4,286万7,989円の寄付など、様々な形で復興支援を実施いたしました。